

3月の技術対策（水稻）

平成17年3月1日
JAきたそらち・JA北いぶき
空知北部地区農業改良普及センター
雨竜西部地区農業改良普及センター

1 種子消毒

表1 種子消毒剤（H17年度農作物病害虫・雑草防除ガイド掲載剤）

処理時期	薬剤名	対象病害名					使用濃度 使用方法	使用時期	使用回数
		ばか 苗病	褐条 病	苗立 枯病	いも ち病	リゾ プス 菌			
種粒 浸漬	テグレートC7フロアブル	●	●	●	○	○	200倍・24時間	浸種前	1
	モシガードC・DF	●	●	●	○	○	200倍・24時間	浸種前	1
	エコホープ (化学合成農薬成分数にカウントされない)	○	○	○	○	○	200倍・ 24～48時間	浸種前～ 催芽前	1

※1) ○は登録あり。●は道の指導参考になっているもの。

※2) 消毒液の水温は10℃以下にしないでください。

※3) 対象病害名リゾプス菌は「苗立枯病(リゾプス菌)」を示す。

消毒済種子

消毒済種子は「モシガードC・DF」処理をしています。消毒済種子は、浸種後3日間は水の交換をしないでください。また、最初に水の交換をする際は静かに行いましょう。

2 種粒の浸漬と催芽

- 種粒の発芽を揃えるために適水温と適日数を守ってください。16年産種粒は、品種により一部粒水分が低くなっていることが考えられますので、浸漬日数を通常より1～2日延長してください。

- 浸漬中の種粒の酸素不足を防止するために、水の交換は2～3日毎に1回行ってください。

- 催芽時の温度は一定状態を保ち、催芽状態をこまめに確認してください。通常は30～32℃の温度で20時間程度で「ハト胸～2mm」の状態になります。催芽状態が悪い場合は4～6時間程度の時間延長が必要です。

褐条病対策

- ①浸漬時に「循環式催芽機」を使用しシャワーにより酸素補給をしていると、酸素補給時に褐条病菌（シュートモナス菌）の感染を助長します。
- ②浸漬時はシャワー口を取りはずし、ビニールホースを水中に入れるように取り付けて水を循環してください(種子消毒・水の交換を必ず実施してください)。
- ③催芽は「静置式催芽」又は「蒸気式催芽」で行ってください。
- ④「温湯消毒」や「エコホープ消毒」は褐条病には効果がないので、循環式催芽機による浸漬、催芽は避けてください。

表2 種粒の浸漬水温と浸漬日数
(H16年産種子)

浸漬水温	浸漬日数	備考
10℃	9～10日	
11	8～9	この範囲が適水温と適日数。
12	7～8	

3 育苗箱数の確保

高整粒米・低炊米生産にとって、適正な栽植密度を確保することは重要なことです。適正な栽植密度を確保するために必要な苗箱を準備してください。

表3 田植機別の栽植密度と必要苗箱数(H8年長谷川)

m ² 当り 株数 (株)	株間 (cm)	成 苗(箱・枠/10a)				中 苗(箱・枠/10a)		
		ポット苗		箱ポット苗	型枠苗	マット苗	型枠苗	箱ポット苗
		490穴	448穴	16回	8回	20回	10回	18回
22	14	44	48	40	37	—	—	—
23	13	48	52	43	39	—	—	—
25	12	52	56	46	43	37	34	37

※) **斜め太字** は適正栽植密度を確保するのに必要な箱数を示す。

4 育苗基肥

昨年、苗に軽度の燐酸過剰障害(第1葉の先端が褐色～濃紫色に変色)が発生していた苗床は、育苗化成「S066」を使用することで症状が軽減できます。

表4 育苗様式別の施肥基準例

区分	土壌の種類 育苗様式	一 般 土 壤			軽度の燐酸・加里過剰土壌	
		中 苗		成 苗	中 苗	成 苗
		箱マット 箱ポット	型 枠	ポット	箱マット 箱ポット	型 枠 ポット
土量(ℓ/箱・枠)		4.6	2.1	2.0	4.6	2.1
肥料銘柄		育苗10号	—	育苗10号	S066	—
施肥量(g/箱)		12	—	6	10	—
肥料銘柄		—	S258	S258	—	S066
施肥量(g/坪)		—	680	680	—	820

※) 施肥量：床土は箱(枠)当たり、置床は耕起深10cmで坪(3.3m²)当たりを示す。

5 本田の融雪促進・ケイ酸補給

水田の乾土効果は、水田に水を入れる前にどれだけ乾かしたかにより決まります。乾土効果による土壌窒素は、湛水直後から速やかに出るため、基肥施肥と同様の効果があります。ケイ酸の補給と融雪促進効果を兼ねてケイ酸資材の施用に努めてください。

融雪効果を高めるためには10a当たり60kg程度散布する必要があります。

○散布時期：3月15日～20日

※) 週間予報を参考に気温の高い日が続く日に散布してください。

※) 降雪が20cm以上あった場合は再散布が必要です。

○散布量(融雪効果の下限量)：
各資材とも
10a当たり60kg

表5 土壌型別のケイ酸資材施用量

土 壌 型	ケイ酸資材施用量(kg/10a)	
	ケイカル・ミネカル	みづかね
グライ土	150～180	100～120
泥炭土	150～180	100～120
灰色低地土	120～150	80～100
灰色台地土	120～150	80～100
褐色低地土	90～120	60～80

ケイ酸の土壌分析値がある場合は、これに基づき施用してください